

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
統計学基礎【c】《データサイエンス入門》	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 第1回 データサイエンスとは データサイエンスとは、データサイエンスが重要視される背景(データ量の増加、計算機の処理性能の向上等)、データ活用を支援するデジタル技術のキーワード①ビッグデータ・②IoT・③AI 第2回 社会で起きている変化 日本企業の国際競争力低下、市場の大きな変化、デジタル技術の発展、デジタル社会の提言①第4次産業革命・②Industrie4.0(ドイツ)・③データ駆動型社会(日本)・④Society5.0(日本)
	1-6 第8回 データ・AI利活用の最新動向 データ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(ビッグデータ分析による予測、意思決定支援、ダイナミックプライシング、個人信用評価サービス等)、データ・AIに関連した新技術(AI最新技術の活用例:敵対的生成ネットワーク、強化学習、転移学習等)、新ビジネスがなぜ小さな企業から生まれやすいのか
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 第3回 社会で活用されているデータ 統計データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータ、データの分類(1次データ・2次データ、外部データ・内部データ、構造化・準構造化・非構造化データ)、オープンデータ
	1-3 第4回 データ・AIの活用領域 AIの定義、AIの歴史、業種別のAI活用領域(データ・AI活用領域の広がり(生産、消費):製造、小売、物流、医療・介護)、人間に近づくAI(データ・AI活用領域の広がり(文化活動):絵画、作曲、小説等)
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 第5回 データ・AI利活用のための技術 データ認識技術、AI技術(ルールベース、機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習、深層学習)、AIの課題・AIの難問(今のAIで出来ること出来ないこと、フレーム問題、シンボルグラウンディング問題)、AIが社会にもたらす影響(特化型AIと汎用型AIなど)
	1-5 第6回 データ活用とは データの定義、データ活用のモデル、データ分析のアプローチ(データサイエンスのサイクル)①目的設計・②分析計画・データ設計・③データ収集・保存・データの前処理・分析手法選択と適用・④分析結果の解釈・施策の提案・実施と検証、データ分析においてより大きな価値を生む領域 第7回 データ・AI利活用の現場 製造業のデータ・AI利活用事例紹介、小売業(流通)のデータ・AI利活用事例紹介、サービス業のデータ・AI利活用紹介、公共・インフラのデータ・AI利活用事例紹介、データ・AI活用による新しいビジネス領域(シェアリングエコノミー、D2C、スマートシティ)

(4)活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	第13回 データ・AIを扱う上での留意事項(1) 「ELSI」とは何か、データに関する不正行為(データのねつ造、改ざん、盗用)、個人情報の保護(個人情報保護法、オプトイン/オプトアウト、GDPR、忘れられる権利)、個人情報は誰が管理すべきか 第14回 データ・AIを扱う上での留意事項(2) バイアスとは、データ収集におけるバイアス、データ・AIを扱う上でのバイアス(データバイアス・アルゴリズムバイアス)、AIの正しい活用に向けて(人間中心のAI社会原則:公平性、説明責任、透明性の原則、AIサービスの責任論)
	3-2	第15回 データを守る上での留意事項とまとめ 情報セキュリティ(可用性、機密性、完全性)、従業員等による内部不正、コンピュータウイルスへの感染、サイバー攻撃、情報セキュリティ脅威事例、セキュリティ技術(暗号化、パスワード)
(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	第9回 データを読む(1) データの種類(量的変数・質的変数、尺度)、データの代表値(平均値、最頻値、中央値)、演習:相乗平均・調和平均、演習:データの代表値、データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、演習:データのばらつき、データのチェック 第10回 データを読む(2) 相関と因果(散布図、相関係数)、演習:相関関係、疑似相関(潜伏変数、交絡因子)・アンスコム の例、母集団と抽出(母集団と標本、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出)、統計情報の正しい理解(認知バイアス、印象操作)
	2-2	第11回 データを説明する データ表現(グラフをつくる、データを比較するためのグラフ(棒グラフ、円グラフ、積み上げ棒グラフ、レーダーチャート)、時間の推移を見せるためのグラフ(折れ線グラフ、面グラフ)、データ相互の関係を示すためのグラフ(散布図)、データの偏りを示すためのグラフ(ヒートマップ))、演習:グラフをつくる、データの比較(A/Bテスト)、適切なグラフ表現(チャートジャンク)、優れた可視化事例の紹介
	2-3	第12回 データを扱う データ解析ツール(Microsoft Excel)を使用し、表形式のデータを実際に操作する。データの集計(和や平均)やデータの並び替え等を行う。 演習1「売り上げを予測する」、演習2「顧客層を分析する」、演習3「顧客満足度を把握する」、演習4「顧客不満の要因を探る」

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- ①社会におけるデータ・AI利活用について説明できるようになること。
 - ②データリテラシー(データの扱い方、データの読み方)について説明できるようになること。
 - ③データ・AI利活用における留意事項について説明できるようになること。
- 培うべき力＝①専門的な技術・技能(専門基礎知識の修得)、②論理的思考力・創造力

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 2022 年度

②履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和4年度						令和3年度						令和2年度						令和元年度						平成30年度						平成29年度						履修者数合計	履修率
				履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数										
				合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性								
文学部	1,348	300	1,210	103	72	31	94	64	30	0			0			0			0			0			0			0			0			0			103	9%			
教育学部	915	200	810	14	4	10	13	4	9	0			0			0			0			0			0			0			0			0			14	2%			
現代日本社会学部	517	120	460	33	32	1	27	26	1	0			0			0			0			0			0			0			0			0			33	7%			
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!			
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!			
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!			
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!			
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!			
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!			
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!			
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!			
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!			
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!			
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!			
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!			
合計	2,780	620	2,480	150	108	42	134	94	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	150	6%			

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人

② プログラムの授業を教えている教員数 人

③ プログラムの運営責任者
 (責任者名) (役職名)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

 (責任者名) (役職名)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

⑥ 体制の目的

⑦ 具体的な構成員

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和4年度実績	6%	令和5年度予定	25%	令和6年度予定	50%
令和7年度予定	75%	令和8年度予定	100%	収容定員(名)	2,480

具体的な計画

令和5年度入学生より本プログラムを構成する科目は全学部生が必修科目(2セメスター(1年次秋学期))となり、年度進行に伴い全学生が履修する予定である。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

学部・学科に関係なく希望する全学生が受講可能になるよう、オンデマンド型の遠隔授業を採用し、抽選なしで履修を可能にしている。また、令和5年度入学生より本プログラムを構成する科目は全学必修科目となっている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

学部・学科に関係なく全学生が受講可能になるよう、オンデマンド型の遠隔授業を採用し、抽選なしで履修可能にしている。また、令和5年度より本プログラムを構成する科目は全学部の学生の必修科目としている。

令和4年度は1年生の必修科目「初年次ゼミ」でプログラムを周知するチラシを配布し、履修を促し一定の効果を得た。また、令和5年度以降は新1年生の履修・修学指導でチラシを配布しており、周知を徹底している。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

講義資料および動画はLMSに蓄積され、全ての受講生が開講期間中いつでも講義資料と動画の閲覧が可能となっている。必修化された令和5年度入学生以降は学生支援部教務担当が履修登録を一括して実施している。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

受講生に毎回小テストで50字以上のコメントを入力させている。これに対して次回振り返り動画を教員が作成し、受講生からのコメントを紹介し、コメントを受けた教員のコメントまた質問への回答等を行っている。また、授業時間外もLMS内の掲示板を利用し、質問等を学生が記入することができ、担当教員を通して回答する体制を整備している。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

教育開発センター教育企画室会議

(責任者名) 筒井 琢磨

(役職名) 教育企画室長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>全学部共通科目として「統計学基礎」のクラス【c】《データサイエンス入門》を開講した。 統計学基礎【c】 受講者数150名 単位修得者数134名(単位修得率89%)</p>
学修成果	<p>秀104名、優22名、良6名、可2名、不可2名、放棄14名 合計150名 秀 69%、優 15%、良4%、可 1%、不可 1%、放棄 9%</p> <p>・オンデマンド型のオンライン授業であったので動画を100%視聴するよう指示しており、動画を全く視聴しない回数が5回以上となった学生は放棄の扱いとした。小テストにもコースニュースを見るように何度も指示したが、なかなか確認率が上がらなかった。 ・コースニュースを確認しない学生が一定数存在した原因として、同じく全学必修であり、オンデマンド型のオンライン授業である「伊勢志摩共生学」ではコースニュースを利用する頻度が低かったため、次年度からは「伊勢志摩共生学」でのコースニュースを積極的に利用し、相乗的に確認率が上がるように検討する。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>・授業内容が3部構成となっており、部毎に理解度をアンケートで確認した。 ・理解度は高かった。教材の質が高いことが要因と考える。 【R4学修成果評価アンケートより】</p> <p>1. この授業を受講して、第1部「社会におけるデータ・AI活用」について理解できたと思いますか。 十分理解できた 77名 57% ある程度理解できた 55名 41% あまり理解できなかった 3名 2% 理解できなかった 0名 0%</p> <p>2. この授業を受講して、第2部「データリテラシー(データの扱い方、データの読み方)」について理解できたと思いますか。 十分理解できた 69名 51% ある程度理解できた 61名 45% あまり理解できなかった 5名 4% 理解できなかった 0名 0%</p> <p>3. この授業を受講して、第3部「データ・AI活用における留意事項」について理解できたと思いますか。 十分理解できた 78名 58% ある程度理解できた 53名 39% あまり理解できなかった 3名 2% 理解できなかった 1名 1%</p> <p>4. この授業を通じて、データサイエンス・AIを学ぶ意義を理解できたと思いますか。 十分理解できた 88名 65% ある程度理解できた 43名 32% あまり理解できなかった 4名 3% 理解できなかった 0名 0%</p> <p>・今年度は選択科目であったので、関心がある学生、修得できる見込みがあると考えて履修する学生が多かったこと、次年度より全学必修となり、得意ではない学生が多くなることが予想され、同様のアンケートを取っても結果は変わってくる可能性があることが指摘された。例えば、学生がExcelが難しいと感じた時の解決方法について、窓口はあった方がよいことや、リアルタイムに助言できないのは難点であるが、LMSの掲示板における学生からの問合せには対応し、解決できていた。また、サポート体制はさらに整える必要があることや、今年度もExcelの作業は減点ではなく、加点で評価するとアナウンスを行っており、次年度も同様の形で進めて行く予定であることが確認された。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>・4件法で質問「勧めたい」「どちらかと言えば勧めたい」と回答した学生が99%を占めた。 【R4学修成果評価アンケートより】</p> <p>8. この授業の受講を後輩等他の学生に勧めたいですか。 勧めたい 101名 75% どちらかといえば勧めたい 32名 24% どちらかといえば勧めたくない 2名 1% 勧めたくない 0名 0%</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>1)令和4年度は「初年次ゼミ」最終回にて全学科アナウンス実施。 2)令和5年度から「データサイエンス入門」を学部共通科目必修として開設予定。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>1) 令和4年度は卒業生がいないため実施できず。 2) 将来、就職先企業等に対するアンケート調査(卒業生が就職して3年目の企業・団体を対象。就職担当・教育開発センターが実施主体、令和2、4年度実施)を利用できるか検討。</p> <p>1) 三十三銀行との連絡会議でご意見をいただくか検討。 2) 令和5年度以降は外部評価委員会でもご意見をいただくか検討。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>・99%((83+50)/135)の学生が「十分感じた」「ある程度感じた」と回答した。 【R4学修成果評価アンケートより】 5. この授業を通じて、データサイエンス・AIを学ぶ楽しさを感じましたか。 十分感じた 83名 61% ある程度感じた 50名 37% あまり感じなかった 2名 1% 感じなかった 0名 0%</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>・「十分わかりやすかった」「ある程度わかりやすかった」と回答した学生が98%を占めた。 ・Excelを用いた演習をうまく進めることができたかについて、「うまく進めることができた」「ある程度うまく進めることができた」と回答した学生は91%であった。他の回答と比べて少し苦戦した学生が多く、課題として認識している。 【R4学修成果評価アンケートより】 6. この授業の動画内容はわかりやすかったですか。 十分わかりやすかった 93名 69% ある程度わかりやすかった 39名 29% あまりわかりやすくなかった 2名 1% わかりやすくなかった 1名 1% 7. この授業で、Excelを用いた演習をうまく進めることができましたか。 うまく進めることができた 69名 51% ある程度うまく進めることができた 54名 40% あまりうまく進めることができなかった 11名 8% うまく進めることができなかった 1名 1% ・Excelに苦戦した学生が多かったことに関して、他授業「情報処理Ⅱ」等でExcelについて指導されていることが報告されたが、「情報処理Ⅱ」を履修していない可能性や、修得してから間が空いている学生も多いことが結果の一因として確認された。 ・Excelについて、動画で解説されている公式のソフトウェアではなく、代用品として出回っている類似の別のソフトウェアを利用している学生も多いことが指摘された。これに対して、令和5年度入学生からは学習端末必携化に伴い、当該ソフトをインストールしておくよう依頼していることが報告された。また大学から学生に配付しているGoogleのアカウントにログインし、スプレッドシートを利用すれば動画内で指示しているほとんどの作業は可能であることも報告された。</p>

統計学基礎【c】《データサイエンス》〈H31-入学〉

授業コード	501212-03	授業科目名	統計学基礎【c】《データサイエンス入門》〈H31-入学〉	担当者	筒井 琢磨
開講期間	秋学期	単位数	2	学年	1
区分					
備考					

【授業目的】

今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養をこの授業を通じて主体的に身に付けることを目的とする。また、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能（統計学を含む）をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになることを目的とする。

【授業内容】

第 1 回		実施日	
事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
シラバスを読んでおく。	<ul style="list-style-type: none"> ・「ガイダンス」動画視聴 ・「第1回 データサイエンスとは」動画視聴 ・小テスト受験 ・質疑応答 	「第1回 データサイエンスとは」の手書きメモを読み返し、講義内容を復習しておく。30分。	
第 2 回		実施日	
事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
前回「第1回 データサイエンスとは」で調べた用語の意味を確認しておく。15分。	<ul style="list-style-type: none"> ・「第2回 社会で起きている変化」動画視聴 ・小テスト受験 ・質疑応答 	「第2回 社会で起きている変化」の手書きメモを読み返し、講義内容を復習しておく。30分。	
第 3 回		実施日	
事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
前回「第2回 社会で起きている変化」で調べた用語の意味を確認しておく。15分。	<ul style="list-style-type: none"> ・「第3回 社会で活用されているデータ」動画視聴 ・小テスト受験 ・質疑応答 	「第3回 社会で活用されているデータ」の手書きメモを読み返し、講義内容を復習しておく。30分。	
第 4 回		実施日	
事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
前回「第3回 社会で活用されているデータ」で調べた用語の意味を確認しておく。15分。	<ul style="list-style-type: none"> ・「第4回 データ・AIの活用領域」動画視聴 ・小テスト受験 ・質疑応答 	「第4回 データ・AIの活用領域」の手書きメモを読み返し、講義内容を復習しておく。30分。	
第 5 回		実施日	
事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
前回「第4回 データ・AIの活用領域」で調べた用語の意味を確認しておく。15分。	<ul style="list-style-type: none"> ・「第5回 データ・AI利活用のための技術」動画視聴 ・小テスト受験 ・質疑応答 	「第5回 データ・AI利活用のための技術」の手書きメモを読み返し、講義内容を復習しておく。30分。	
第 6 回		実施日	
事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
前回「第5回 データ・AI利活用のための技術」で調べた用語の意味を確認しておく。15分。	<ul style="list-style-type: none"> ・「第6回 データ活用とは」動画視聴 ・小テスト受験 ・質疑応答 	「第6回 データ活用とは」の手書きメモを読み返し、講義内容を復習しておく。30分。	
第 7 回		実施日	
事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
前回「第6回 データ活用とは」で調べた用語の意味を確認しておく。15分。	<ul style="list-style-type: none"> ・「第7回 データ・AI利活用の現場」動画視聴 	「第7回 データ・AI利活用の現場」の	

	・小テスト受験 ・質疑応答	手書きメモを読み返し、講義内容を復習しておく。30分。	
第 8 回 実施日			
事前学習 前回「第 7 回 データ・AI利用の現場」で調べた用語の意味を確認しておく。15分。	授業内容 ・「第 8 回 データ・AI利用の最新動向」動画視聴 ・小テスト受験 ・質疑応答	事後学習 「第 8 回 データ・AI利用の最新動向」の手書きメモを読み返し、講義内容を復習しておく。30分。	参考文献
第 9 回 実施日			
事前学習 前回「第 8 回 データ・AI利用の最新動向」で調べた用語の意味を確認しておく。15分。	授業内容 ・「第 9 回 データを読む（1）」（代表値、ばらつき等）動画視聴 ・小テスト受験 ・質疑応答 ・Excel演習	事後学習 「第 9 回 データを読む（1）」の手書きメモを読み返し、講義内容を復習しておく。30分。	参考文献
第 10 回 実施日			
事前学習 前回「第 9 回 データを読む（1）」で調べた用語の意味を確認しておく。15分。	授業内容 ・「第 10 回 データを読む（2）」（相関と因果等）動画視聴 ・小テスト受験 ・質疑応答 ・Excel演習	事後学習 「第 10 回 データを読む（2）」の手書きメモを読み返し、講義内容を復習しておく。30分。	参考文献
第 11 回 実施日			
事前学習 前回「第 10 回 データを読む（2）」で調べた用語の意味を確認しておく。15分。	授業内容 ・「第 11 回 データを説明する」動画視聴 ・小テスト受験 ・質疑応答 ・Excel演習	事後学習 「第 11 回 データを説明する」の手書きメモを読み返し、講義内容を復習しておく。30分。	参考文献
第 12 回 実施日			
事前学習 前回「第 11 回 データを説明する」で調べた用語の意味を確認しておく。15分。	授業内容 ・「第 12 回 データを扱う」動画視聴 ・小テスト受験 ・質疑応答 ・Excel演習	事後学習 「第 12 回 データを扱う」の手書きメモを読み返し、講義内容を復習しておく。30分。	参考文献
第 13 回 実施日			
事前学習 前回「第 12 回 データを扱う」で調べた用語の意味を確認しておく。15分。	授業内容 ・「第 13 回 データ・AIを扱う上での留意事項（1）」（ELSI、インフォームドコンセント等）動画視聴 ・小テスト受験 ・質疑応答	事後学習 「第 13 回 データ・AIを扱う上での留意事項（1）」の手書きメモを読み返し、講義内容を復習しておく。30分。	参考文献
第 14 回 実施日			
事前学習 前回「第 13 回 データ・AIを扱う上での留意事項（1）」で調べた用語の意味を確認しておく。15分。	授業内容 ・「第 14 回 データ・AIを扱う上での留意事項（2）」（バイアス等）動画視聴 ・小テスト受験 ・質疑応答	事後学習 「第 14 回 データ・AIを扱う上での留意事項（2）」の手書きメモを読み返し、講義内容を復習しておく。30分。	参考文献
第 15 回 実施日			
事前学習 前回までに調べた用語の意味をすべて確認しておく。30分。	授業内容 ・「第 15 回 データを守る上での留意事項とまとめ」動画視聴 ・最終試験	事後学習 「第 15 回 データを守る上での留意事項とまとめ」の手書きメモを読み返し、講義内容を復習しておく。30分。	参考文献

【到達目標】

- ①社会におけるデータ・AI活用について説明できるようになること。
- ②データリテラシー（データの扱い方、データの読み方）について説明できるようになること。
- ③データ・AI活用における留意事項について説明できるようになること。

この授業が関連するディプロマポリシー＝

（大学DP3）社会において必要とされる知識・技能と、課題解決のための思考力・判断力・表現力等の汎用的な能力を備えている。

科目ナンバリングコード＝01104

【授業形態】

manabaをベースにしたオンデマンド型授業。動画視聴、小テスト受験、掲示板を介した質疑応答を中心とする。Excel演習もある。

【教科書】

【参考書】

【成績評価の方法】

小テスト50%、最終試験50%。Excel演習は必須でなく、加点対象。

【成績評価の基準】

到達目標の内容をほぼ完全にできる。	90～100点
到達目標の内容を十分にできる。	80～89点
到達目標の内容の基幹部分をできる。	70～79点
到達目標の内容の最低限の部分ができる。	60～69点
到達目標に及ばない。	0～59点

【受講学生への要望】

国の推進する「AI戦略2019」の趣旨に沿った科目です。今後のデジタル社会を担う人間として自覚的に学修を進めてください。

【履修注意】

動画コンテンツ視聴の際は必ずメモを取り、分からない用語をあとで調べておくこと。

統計学基礎【c】《データサイエンス》〈H26-30入学〉

授業コード	501133-03	授業科目名	統計学基礎【c】《データサイエンス入門》〈H26-30入学〉	担当者	筒井 琢磨
開講期間	秋学期	単位数	2	学年	1
区分					
備考					

【授業目的】

今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養をこの授業を通じて主体的に身に付けることを目的とする。また、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能（統計学を含む）をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになることを目的とする。

【授業内容】

第 1 回		実施日	
事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
シラバスを読んでおく。	<ul style="list-style-type: none"> ・「ガイダンス」動画視聴 ・「第1回 データサイエンスとは」動画視聴 ・小テスト受験 ・質疑応答 	「第1回 データサイエンスとは」の手書きメモを読み返し、講義内容を復習しておく。30分。	
第 2 回		実施日	
事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
前回「第1回 データサイエンスとは」で調べた用語の意味を確認しておく。15分。	<ul style="list-style-type: none"> ・「第2回 社会で起きている変化」動画視聴 ・小テスト受験 ・質疑応答 	「第2回 社会で起きている変化」の手書きメモを読み返し、講義内容を復習しておく。30分。	
第 3 回		実施日	
事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
前回「第2回 社会で起きている変化」で調べた用語の意味を確認しておく。15分。	<ul style="list-style-type: none"> ・「第3回 社会で活用されているデータ」動画視聴 ・小テスト受験 ・質疑応答 	「第3回 社会で活用されているデータ」の手書きメモを読み返し、講義内容を復習しておく。30分。	
第 4 回		実施日	
事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
前回「第3回 社会で活用されているデータ」で調べた用語の意味を確認しておく。15分。	<ul style="list-style-type: none"> ・「第4回 データ・AIの活用領域」動画視聴 ・小テスト受験 ・質疑応答 	「第4回 データ・AIの活用領域」の手書きメモを読み返し、講義内容を復習しておく。30分。	
第 5 回		実施日	
事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
前回「第4回 データ・AIの活用領域」で調べた用語の意味を確認しておく。15分。	<ul style="list-style-type: none"> ・「第5回 データ・AI利活用のための技術」動画視聴 ・小テスト受験 ・質疑応答 	「第5回 データ・AI利活用のための技術」の手書きメモを読み返し、講義内容を復習しておく。30分。	
第 6 回		実施日	
事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
前回「第5回 データ・AI利活用のための技術」で調べた用語の意味を確認しておく。15分。	<ul style="list-style-type: none"> ・「第6回 データ活用とは」動画視聴 ・小テスト受験 ・質疑応答 	「第6回 データ活用とは」の手書きメモを読み返し、講義内容を復習しておく。30分。	
第 7 回		実施日	
事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
前回「第6回 データ活用とは」で調べた用語の意味を確認しておく。15分。	<ul style="list-style-type: none"> ・「第7回 データ・AI利活用の現場」動画視聴 	「第7回 データ・AI利活用の現場」の	

	・小テスト受験 ・質疑応答	手書きメモを読み返し、講義内容を復習しておく。30分。	
第 8 回 実施日			
事前学習 前回「第 7 回 データ・AI利用の現場」で調べた用語の意味を確認しておく。15分。	授業内容 ・「第 8 回 データ・AI利用の最新動向」動画視聴 ・小テスト受験 ・質疑応答	事後学習 「第 8 回 データ・AI利用の最新動向」の手書きメモを読み返し、講義内容を復習しておく。30分。	参考文献
第 9 回 実施日			
事前学習 前回「第 8 回 データ・AI利用の最新動向」で調べた用語の意味を確認しておく。15分。	授業内容 ・「第 9 回 データを読む（1）」（代表値、ばらつき等）動画視聴 ・小テスト受験 ・質疑応答	事後学習 「第 9 回 データを読む（1）」の手書きメモを読み返し、講義内容を復習しておく。30分。	参考文献
第 10 回 実施日			
事前学習 前回「第 9 回 データを読む（1）」で調べた用語の意味を確認しておく。15分。	授業内容 ・「第 10 回 データを読む（2）」（相関と因果等）動画視聴 ・小テスト受験 ・質疑応答	事後学習 「第 10 回 データを読む（2）」の手書きメモを読み返し、講義内容を復習しておく。30分。	参考文献
第 11 回 実施日			
事前学習 前回「第 10 回 データを読む（2）」で調べた用語の意味を確認しておく。15分。	授業内容 ・「第 11 回 データを説明する」動画視聴 ・小テスト受験 ・質疑応答	事後学習 「第 11 回 データを説明する」の手書きメモを読み返し、講義内容を復習しておく。30分。	参考文献
第 12 回 実施日			
事前学習 前回「第 11 回 データを説明する」で調べた用語の意味を確認しておく。15分。	授業内容 ・「第 12 回 データを扱う」動画視聴 ・小テスト受験 ・質疑応答	事後学習 「第 12 回 データを扱う」の手書きメモを読み返し、講義内容を復習しておく。30分。	参考文献
第 13 回 実施日			
事前学習 前回「第 12 回 データを扱う」で調べた用語の意味を確認しておく。15分。	授業内容 ・「第 13 回 データ・AIを扱う上での留意事項（1）」（ELSI、インフォームドコンセント等）動画視聴 ・小テスト受験 ・質疑応答	事後学習 「第 13 回 データ・AIを扱う上での留意事項（1）」の手書きメモを読み返し、講義内容を復習しておく。30分。	参考文献
第 14 回 実施日			
事前学習 前回「第 13 回 データ・AIを扱う上での留意事項（1）」で調べた用語の意味を確認しておく。15分。	授業内容 ・「第 14 回 データ・AIを扱う上での留意事項（2）」（バイアス等）動画視聴 ・小テスト受験 ・質疑応答	事後学習 「第 14 回 データ・AIを扱う上での留意事項（2）」の手書きメモを読み返し、講義内容を復習しておく。30分。	参考文献
第 15 回 実施日			
事前学習 前回までに調べた用語の意味をすべて確認しておく。30分。	授業内容 ・「第 15 回 データを守る上での留意事項とまとめ」動画視聴 ・最終試験	事後学習 「第 15 回 データを守る上での留意事項とまとめ」の手書きメモを読み返し、講義内容を復習しておく。30分。	参考文献

【到達目標】

- ①社会におけるデータ・AI活用について説明できるようになること。
- ②データリテラシー（データの扱い方、データの読み方）について説明できるようになること。

③データ・AI活用における留意事項について説明できるようになること。

培うべき力=①専門的な技術・技能（専門基礎知識の修得）、②論理的思考力・創造力

【授業形態】

manabaをベースにしたオンデマンド型授業。動画視聴、小テスト受験、掲示板を介した質疑応答を中心とする。

【教科書】

【参考書】

【成績評価の方法】

小テスト50%、最終試験50%

【成績評価の基準】

到達目標の内容をほぼ完全にできる。	90～100点
到達目標の内容を十分にできる。	80～89点
到達目標の内容の基幹部分をできる。	70～79点
到達目標の内容の最低限の部分をできる。	60～69点
到達目標に及ばない。	0～59点

【受講学生への要望】

国の推進する「AI戦略2019」の趣旨に沿った科目です。今後のデジタル社会を担う人間として自覚的に学修を進めてください。

【履修注意】

動画コンテンツ視聴の際は必ずメモを取り、分からない用語をあとで調べておくこと。

数理・データサイエンス・ AI 教育プログラム (リテラシーレベル)

本プログラムは文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に令和5年度申請予定です。

授業科目	統計学基礎【c】 《データサイエンス入門》 秋学期 土1オンライン（オンデマンド）
担当者	筒井 琢磨 教授
プログラム登録方法	皇學館システムの時間割登録より、 秋学期土1の「統計学基礎【c】《データサイエンス入門》」を履修登録。
プログラム登録期間	令和4年9月16日～10月1日 (履修登録修正期間) ※春学期に履修登録している場合は登録不要です。

お問合せ先

履修登録に関すること

➔ 教務担当

(大学本部)

プログラム内容に関すること

➔ 地域課題学修支援室

(9号館2階)

令和4年度

履修要項

皇學館大学

文学部

教育学部

現代日本社会学部

文学研究科

教育学研究科

神道学専攻科

Ⅱ. 卒業進級要件・カリキュラム表 (平成31~令和4年度の入学生)

必要修得単位数

学部	学科	科目区分	共通科目											共通又は自学科専門 (他学科専門も可)	自学科専門科目										卒業進級単位数	各種課程	
			建学の精神		総合基礎		地域志向科目	人生と仕事	職業人実務基礎	外国語	教養	体育	伝統文化	単位互換単位認定	選択科目	必修	講義	講読	演習		特講	概説	卒業論文又は卒業研究				
			必修	選択	必修	選択													必修	選択							
文	文学部	神道	4	4																				卒業論文 4	卒業単位124単位以上 進級単位62単位以上(「初年次ゼミ」2単位を含む)	卒業・進級の単位には含まれません	
			20以上											42以上	62以上												
		国文	4	4																							卒業論文 4
			20以上											42以上	62以上												
国史	4	4																					卒業論文 4				
	20以上											42以上	62以上														
コミュニケーション	4	4																					卒業研究 4				
	20以上											42以上	62以上														
教育	教育学部	(4コース)	4	4																				2単位を含む	卒業単位124単位以上 進級単位62単位以上(「初年次ゼミ」2単位を含む)	卒業・進級の単位には含まれません	
			20以上											24以上	80以上												
現代日本社会	現代日本社会	(4コース)	4	4																					卒業単位124単位以上 進級単位62単位以上(「初年次ゼミ」2単位を含む)	卒業・進級の単位には含まれません	
			20以上											34以上	70以上												

※仮進級については、「皇學館大学授業科目履修規程」第6章第13条(P.238)を参照

カリキュラム (卒業進級要件 H31~R4)

履修上の注意（平成31～令和4年度の入学生）

〈共通科目〉

共通科目とは、大学の卒業に必要な基礎知識・教養を修得するために、全学部生が履修できる科目です。履修に際しては、以下の条件に注意すること。

- (1) 必修科目を含め、20単位以上修得すること。
- (2) 建学の精神の「皇学入門」「伊勢志摩共生学」は必修。
- (3) 総合基礎について、「初年次ゼミ」「日本語表現」は必修。
- (4) コミュニケーション学科は総合基礎科目「情報処理Ⅰ（基礎）・Ⅱ（応用）」の2単位必修。
- (5) 「英語表現Ⅰ～Ⅵ」について、履修を希望する場合はまず「英語表現Ⅰ・Ⅱ」の登録が必要。英語習熟度テストの結果等により、クラスが指定される。
- (6) 教員免許取得希望者は以下の科目が必修。
 - ①「英語表現Ⅰ～Ⅵ」のうち2科目以上
 - ②「情報処理Ⅰ（基礎）・Ⅱ（応用）」
 - ③ 法学（日本国憲法）
 - ④「スポーツⅠ・Ⅱ」、「アダプテッドスポーツⅠ・Ⅱ」及び「武道Ⅰ・Ⅱ」の6科目より2単位以上
- (7) 「英語表現Ⅰ～Ⅵ」について、履修せず単位認定を受ける場合の単位認定条件は、Ⅲ・Ⅳ〈中級〉は英検2級合格、Ⅴ・Ⅵ〈上級〉は英検準1級合格とする。なお、下位の科目が未認定で上位の科目の認定を受けた場合、その下位の科目も同時に単位認定される。
- (8) 「TOEIC演習Ⅰ～Ⅵ」について、履修せず単位認定を受ける場合の単位認定条件は、Ⅰ〈初級〉はTOEIC 500～545点、Ⅱ〈初級〉はTOEIC 550～595点、Ⅲ〈中級〉はTOEIC 600～645点、Ⅳ〈中級〉はTOEIC 650～695点、Ⅴ〈上級〉はTOEIC 700～745点、Ⅵ〈上級〉はTOEIC 750点以上とする。なお、下位の科目が未認定で上位の科目の認定を受けた場合、その下位の科目も同時に単位認定される。
- (9) 「外国語Ⅰ・Ⅱ」については、本学が指定した留学を申請により単位認定。
- (10) 「外国語Ⅰ・Ⅱ」「インターンシップ」「ボランティア」の単位認定については、必要な証明書を添付の上、履修登録願を学生支援部（教務担当）へ提出すること。申請期間は運用上、各学期の履修登録修正期間とする。なお、4年次生について、上記期間に申請できなかった場合は、1月中を最終の申請期間とする。
- (11) 「スポーツⅠ・Ⅱ」の間で種目は変更できるが、「武道Ⅰ・Ⅱ」の間で種目は変更できない。

〈共通又は自学科専門（他学科専門も可）〉

「共通科目」「自学科専門科目」のそれぞれに設定された必要単位数を超えて修得した科目及び、他学部・他学科の専門科目から修得した科目の単位数は、卒業判定において「共通又は専門」として集計されます。

- (1) 文学部については、共通科目又は専門科目から42単位以上修得すること。
教育学部については、共通科目又は専門科目から24単位以上修得すること。
現代日本社会学部については、共通科目又は専門科目から34単位以上修得すること。
- (2) 各学部・学科の専門科目の備考欄に「☆」のついた科目については、他学部及び他学科の学生も履修できる。
- (3) 現代日本社会学部について、教職課程の「教育の基礎的理解に関する科目等」は、卒業・進級要件単位に含まない。

〈自学科専門科目〉

●文学部

○神道学科

- (1) 必修単位12単位、卒業論文4単位を含む62単位以上修得すること。
- (2) 選択必修の講義科目より20単位以上、講読科目より4単位以上、「神道学演習Ⅰ～Ⅳ」又は「宗教学演習Ⅰ～Ⅳ」又は「日本文化学演習Ⅰ～Ⅳ」又は「プロジェクト研究Ⅰ～Ⅳ」より8単位修得のこと。
- (3) 「祭式及び同行事作法」はⅠA→ⅠB→ⅡA→ⅡB→ⅢA→ⅢBの順序で履修すること。

(4) 備考欄

◎は神職課程必修科目

△は神職課程選択必修科目

○は中学校・高校一種「宗教」教免必修科目

○国文学科

- (1) 必修単位12単位、卒業論文4単位を含む62単位以上修得すること。
- (2) 選択必修の講義科目については8単位以上、講読科目より12単位以上、「専門演習Ⅰ～Ⅳ」又は「プロジェクト研究Ⅰ～Ⅳ」についてはいずれか8単位修得のこと。
- (3) 備考
 - は中学校・高校一種「国語」教免必修科目
 - △は高校一種「書道」教免必修科目

○国史学科

- (1) 必修単位10単位、「国史学演習Ⅰ・Ⅱ」及び「国史学特殊演習Ⅰ・Ⅱ」、又は「プロジェクト研究Ⅰ～Ⅳ」より選択必修8単位、卒業論文4単位を含む62単位以上修得すること。
- (2) 選択必修の特講科目については8単位以上、講読科目より10単位以上、「東洋史概説Ⅰ・Ⅱ」及び「西洋史概説Ⅰ・Ⅱ」については4単位以上修得のこと。
- (3) 備考
 - は中学校一種「社会」教免必修科目
 - ◎は高校一種「地理歴史」教免必修科目
 - △は高校一種「公民」教免必修科目
 - は中学校・高校一種「宗教」教免必修科目

○コミュニケーション学科

- (1) 必修単位12単位、「専門演習Ⅰ～Ⅳ」、又は「プロジェクト研究Ⅰ～Ⅳ」より選択必修8単位、卒業研究4単位を含む62単位以上修得すること。
- (2) 備考
 - は中学校・高校一種「英語」教免必修科目

●教育学部

○教育学科（各コース共通）

- (1) 基礎（必修）単位12単位、「教育研究基礎演習」6単位、「教育研究演習Ⅰ～Ⅳ」又は「プロジェクト研究Ⅰ～Ⅳ」より選択必修8単位、卒業研究4単位を含む80単位以上修得すること。
- (2) □は中学校一種「保健体育」教免必修科目
◎は高校一種「保健体育」教免必修科目

●現代日本社会学部

○現代日本社会学科（各コース共通）

- (1) 基礎科目4単位必修。
 - (2) 基幹科目は経営革新・地域創生・福祉展開・文化発信の各分野から2単位以上を含めて、10単位以上修得すること。
 - (3) 展開科目は経営革新・地域創生・福祉展開・文化発信の各分野から2単位以上修得すること。
 - (4) 実習科目は2単位以上修得。演習科目は「現代日本演習Ⅰ・Ⅱ」必修4単位、「現代日本演習Ⅲ～Ⅵ」又は「プロジェクト研究Ⅰ～Ⅳ」より選択必修8単位、「卒業研究」必修4単位を含む16単位以上修得すること。
 - (5) 上記を含めて70単位以上修得すること。
 - (6) 実習科目におけるローマ数字表記科目については、順番どおり修得すること。
 - (7) 「社会情報実習Ⅰ・Ⅱ」の単位認定については、必要な証明書を添付の上、1月末までに履修登録願を学生支援部（教務担当）へ提出すること。
- なお、4年次生について、上記期間に申請できなかった場合は、1月中を最終の申請期間とする。

共通科目

全学部共通科目

共通 H31～R4 ①

授 業 科 目	担 当 者	種別	単位	配当年次・セメスター								備 考				
				1年次		2年次		3年次		4年次						
				1	2	3	4	5	6	7	8					
建学の精神 必 修	皇学入門《神道と日本文化》	神道学科教員 国文学科教員 遠藤(慶)・C.メイヨー 加藤(純)・橋本(雅)	講義	2	○									8クラス (神文史コ現各1クラス・教3クラス)		
	伊勢志摩共生学	オムニバス	講義	2		○								オンライン授業		
総合基礎 必 修	初年次ゼミ	指導教員	演習	2	○									30クラス (編入留学生クラス含む)		
	日本語表現	荊木・濱畑・平石 吉井・川合・前田(雅)	演習	2	○	○										
	選 択	情報処理Ⅰ(基礎)	張・桐村・石田 王・内藤	演習	1	○									13クラス	
		情報処理Ⅱ(応用)	張・桐村・石田 王・内藤	演習	1		○								13クラス	
地域志向科目 選 択	伊勢志摩定住自立圏共生学Ⅰ	池 山	講義	2			○							伊勢志摩圏域の定住資源と将来像 伊勢志摩圏域の経済・産業と将来像 6次産業化実践論 1・2・3次産業基本論		
	伊勢志摩定住自立圏共生学Ⅱ	池 山	講義	2			○									
	伊勢志摩定住自立圏共生学Ⅲ	水谷(三十三総研)	講義	2			○									
	伊勢志摩定住自立圏共生学Ⅳ	別府(三十三総研)	講義	2			○									
	伊勢志摩共生学実習A	池 山	実習	1					○							
	伊勢志摩共生学実習B	池 山	実習	1						○						
人生と仕事 選 択	人生と仕事Ⅰ	オムニバス	講義	1		○								隔週		
	人生と仕事Ⅱ	オムニバス	講義	2			○							愛知心理教育ラボ		
	グローバル化と地域の経済社会	オムニバス	講義	2			○							三十三総研との産学協働講座		
	選 択	インターンシップ	堀内・新田(均)	演習	1			○	※						海外・国内でのイ ンターンシップ等 教育アシスタント等	
		ボランティア	中 松	演習	1			○	※							
職業人実務基礎 選 択	ビジネス会計学(基礎編)	草 川	講義	2		○								名古屋大原学園		
	ビジネス会計学(応用編)Ⅰ	草 川	講義	2			○									
	ビジネス会計学(応用編)Ⅱ	草 川	講義	2				○								
	ビジネス法学(基礎編)	高 木	講義	2				○								
	ビジネス法学(応用編)Ⅰ	高 木	講義	2					○							
	ビジネス法学(応用編)Ⅱ	高 木	講義	2						○						
	ビジネス金融論・税務知識Ⅰ	加 藤 (耕)	講義	2		○										
	ビジネス金融論・税務知識Ⅱ	加 藤 (耕)	講義	2			○									
	選 択	キャリア形成のための数学基礎Ⅰ	藤 井 (一)	演習	2	○										2クラス
		キャリア形成のための数学基礎Ⅱ	藤 井 (一)	演習	2		○									2クラス
	選 択	統 計 学 基 礎	桐 村・草 川 筒 井 (琢)	演習	2	○	○									【a】秋学期 【b】春学期<統計検定対策>大原学園 【c】秋学期<データサイエンス入門>
		マナー入門	村 田	演習	2	○	○									集中1セメのみへ変更
	外国語 選 択	英語表現Ⅰ《初級》	川村・玉田 伊藤(ひ)・小野 折原・倉田・児玉 近藤・竹内	演習	1	○										18クラス
英語表現Ⅱ《初級》														川村・玉田 伊藤(ひ)・小野 折原・倉田・児玉 近藤・竹内		
		英語表現Ⅲ《中級》	岡本・メイヨー(幸)	演習	1	○									4クラス	
英語表現Ⅳ《中級》														岡本・メイヨー(幸)		演習
英語表現Ⅴ《上級》		C.メイヨー・近藤	演習	1	○									2クラス		
英語表現Ⅵ《上級》		C.メイヨー・近藤	演習	1		○								2クラス		
選 択		TOEIC演習Ⅰ《初級》	河合・野澤	演習	1	○									3クラス	
		TOEIC演習Ⅱ《初級》	河合・野澤	演習	1		○								3クラス	
		TOEIC演習Ⅲ《中級》	河 合	演習	1	○									アルク	
		TOEIC演習Ⅳ《中級》	河 合	演習	1		○									
		TOEIC演習Ⅴ《上級》	野 澤	演習	1	○										
		TOEIC演習Ⅵ《上級》	野 澤	演習	1		○									
選 択		ポルトガル語Ⅰ	伊 達	演習	1			○								
		ポルトガル語Ⅱ	伊 達	演習	1				○							

カリキュラム

(共通科目 H31～R4)

Ⅲ. 卒業進級要件・カリキュラム表 (平成26~30年度の入学生)

必要修得単位数

学部	学科	科目区分	共通科目										共通及び専門 選択科目	自学科専門科目										卒業進級単位数	各種課程		
			建学の精神	総合基礎		伊勢志摩定住	人生と仕事	職業人実務基礎	外国語		人間と文化	現代と生活		自然と科学	伝統の心と技	単位互換単位認定	必 修	講 義	講 読	演習		特 講	概 説			卒業論文又は卒業研究	
			必 修	必 修	選 択	選 択	英 語	そ の 他	2 以 上	2 以 上	2 以 上	2 以 上		2 以 上	2 以 上	必 修				選 択	必 修						選 択
文	神道		4	4				4以上		2以上	2以上	2以上	2以上		22	10以上	8以上		8				卒業論文4	卒業進級単位数 卒業単位124単位以上 進級単位62単位以上(「初年次ゼミ」2単位を含む)	卒業・進級の単位には含まれません		
			30以上										32以上	62以上													
	国文		4	4				4以上		2以上	2以上	2以上	2以上		16	8以上	12以上		8				卒業論文4				
			30以上										32以上	62以上													
国史		4	4				4以上		2以上	2以上	2以上	2以上		12		8以上		8		8以上	4以上	卒業論文4					
		30以上										32以上	62以上														
コミュニケーション		4	4	情報処理から2以上			4以上		2以上	2以上	2以上	2以上		12				8				卒業研究4					
		30以上										32以上	62以上														
教	教育	(4コース)	4	4				4以上		2以上	2以上	2以上		共通及び専門	16					4	8		4	卒業進級単位数 卒業単位124単位以上 進級単位62単位以上(「初年次ゼミ」2単位を含む)	卒業・進級の単位には含まれません		
			30以上										14以上	80以上													
現	現代日本社会	(4分野)	4	4				4以上		2以上	2以上	2以上		共通及び専門	8	4以上	4以上	4以上	4以上	4以上	4以上	4以上	2以上	8	8	卒業進級単位数 卒業単位124単位以上 進級単位62単位以上(「初年次ゼミ」2単位を含む)	卒業・進級の単位には含まれません
			30以上										24以上	70以上													

※仮進級については、「皇學館大学授業科目履修規程」第6章第13条 (P.238) を参照

カリキュラム (卒業進級要件 H26~30)

履修上の注意（平成26～30年度の入学生）

〈共通科目〉

共通科目とは、大学の卒業に必要な基礎知識・教養を修得するために、全学部生が履修できる科目です。履修に際しては、以下の条件に注意すること。

- (1) 必修科目を含め、30単位以上修得すること。
- (2) 建学の精神の「皇学入門」「伊勢学（平成28年度以降入学生は「伊勢志摩共生学）」は必修。
- (3) 総合基礎について、「初年次ゼミ」「日本語表現」は必修。
- (4) コミュニケーション学科は総合基礎科目「情報処理Ⅰ（基礎）・Ⅱ（応用）」の2単位必修。
- (5) 外国語について、「英語基礎Ⅰ・Ⅱ」「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」「英語総合Ⅰ・Ⅱ」「英語資格対策Ⅰ・Ⅱ」「英会話Ⅰ・Ⅱ」より4単位以上必修。
- (6) 「英語総合Ⅰ・Ⅱ」「英語資格対策Ⅰ・Ⅱ」「英会話Ⅰ・Ⅱ」は、「英語基礎Ⅰ・Ⅱ」「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」のいずれか2単位取得者のみ受講可。
- (7) 人間と文化について、2単位以上必修。
- (8) 現代と生活について、2単位以上必修。
- (9) 自然と科学について、2単位以上必修。
- (10) 伝統の心と技について、2単位以上必修。
- (11) 教員免許取得希望者は以下の科目が必修。
 - ① 英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ
 - ② 情報処理Ⅰ（基礎）・Ⅱ（応用）
 - ③ 法学（日本国憲法）
 - ④ 武道Ⅰ～Ⅱ又はアダプテッドスポーツⅠ～Ⅱのうち2科目以上
- (12) 中高英語教員免許取得希望者は、「英語総合Ⅰ・Ⅱ」「英語資格対策Ⅰ・Ⅱ」「英会話Ⅰ・Ⅱ」より2単位以上必修。
- (13) 「英語資格対策Ⅰ・Ⅱ」については、Ⅰ（英検2級合格又はTOEIC 470～699）、Ⅱ（英検準1級合格以上又はTOEIC 700点以上）により単位認定。なお、下位の科目が未認定で上位の科目の認定を受けた場合、その下位の科目も同時に単位認定される。
- (14) 「外国語Ⅰ・Ⅱ」については、本学が指定した留学を申請により単位認定。
- (15) 「英語資格対策Ⅰ・Ⅱ」「外国語Ⅰ・Ⅱ」「インターンシップ」「ボランティア」の単位認定については、必要な証明書を添付の上、履修登録願を学生支援部（教務担当）へ提出すること。申請期間は運用上、各学期の履修登録修正期間とする。
なお、4年次生について、上記期間に申請できなかった場合は、1月中を最終の申請期間とする。
- (16) 「武道Ⅰ・Ⅱ」の間で種目を変更することはできない。

〈共通及び専門〉

「共通科目」「自学科専門科目」のそれぞれに設定された必要単位数を超えて修得した科目及び他学部・他学科の専門科目から修得した科目の単位数は、卒業判定において「共通及び専門」として集計されます。

- (1) 文学部については、共通科目及び専門科目から32単位以上修得すること。
教育学部については、共通科目及び専門科目から14単位以上修得すること。
現代日本社会学部については、共通科目及び専門科目から24単位以上修得すること。
- (2) 各学部・学科の専門科目の備考欄に「☆」のついた科目については、他学部及び他学科の学生も履修できる。
- (3) 現代日本社会学部について、教職課程の「教職に関する科目」は、卒業・進級要件単位に含まない。

〈自学科専門科目〉

●文学部

○神道学科

- (1) 必修単位22単位、卒業論文4単位を含む62単位以上修得すること。
- (2) 選択必修の講義科目より10単位以上、講読科目より8単位以上、「神道学演習Ⅰ・Ⅱ」又は「宗教学演習Ⅰ・Ⅱ」又は「日本文化学演習Ⅰ・Ⅱ」又は「プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ」より8単位修得のこと。
- (3) 「祭式及び同行事作法」はⅠ→Ⅱ→Ⅲの順序で履修すること。
※「祭式及び同行事作法Ⅰ」と「祭式及び同行事作法Ⅱ」、「祭式及び同行事作法Ⅱ」と「祭式及び同行事作法Ⅲ」を同時に履修することはできない。ただし、「祭式及び同行事作法Ⅱ」がやむを得ざる理由（留学等）により当該年度に修得できなかった者については、最終学年において「祭式及び同行事作法Ⅲ」と同時に履修することを認める場合がある。

(4) 備考欄

◎は神職課程必修科目

△は神職課程選択必修科目

○は高校・中学校一種「宗教」教免必修科目

○国文学科

(1) 必修単位16単位、卒業論文4単位を含む62単位以上修得すること。

(2) 選択必修の講義科目については8単位以上、講読科目より12単位以上、「専門演習Ⅰ・Ⅱ」又は「プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ」についてはいずれか8単位修得のこと。

(3) 備考

□は高校・中学校一種「国語」教免必修科目

△は高校一種「書道」教免必修科目

○国史学科

(1) 必修単位12単位、「国史学演習」及び「国史学特殊演習」、又は「プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ」より選択必修8単位、卒業論文4単位を含む62単位以上修得すること。

(2) 選択必修の特講科目については8単位以上、講読科目より8単位以上、「東洋史概説」及び「西洋史概説」については4単位以上修得のこと。

(3) 備考

□は中学校一種「社会」教免必修科目

◎は高校一種「地理歴史」教免必修科目

△は高校一種「公民」教免必修科目

○コミュニケーション学科

(1) 必修単位12単位、「コミュニケーション専門演習Ⅰ・Ⅱ」、又は「プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ」より選択必修8単位、卒業研究4単位を含む62単位以上修得すること。

(2) 備考

□は高校・中学校一種「英語」教免必修科目

●教育学部

○教育学科（各コース共通）

(1) 基礎（必修）単位16単位、「教育研究基礎演習」4単位、「教育研究演習Ⅰ・Ⅱ」又は「プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ」より選択必修8単位、卒業研究4単位を含む80単位以上修得すること。

●現代日本社会学部

○現代日本社会学科（各分野共通）

(1) 基礎科目8単位必修。

(2) 基幹科目は政治経済・地域社会・社会福祉・伝統文化の各分野から4単位以上を含めて、18単位以上修得すること。

(3) 展開科目は政治経済・地域社会・社会福祉・伝統文化の各分野から4単位以上修得すること。

(4) 実習科目は2単位以上修得。演習科目は「現代日本演習Ⅰ」必修4単位、「現代日本演習Ⅱ・Ⅲ」又は「プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ」より選択必修8単位、「卒業研究」必修4単位を含む16単位以上修得すること。

(5) 上記を含めて70単位以上修得すること。

(6) 実習科目におけるローマ数字表記科目については、順番どおり修得すること。

(7) 「社会情報実習」の単位認定については、必要な証明書を添付の上、履修登録願を学生支援部（教務担当）へ提出すること。申請期間は運用上、各学期の履修登録修正期間とする。

なお、4年次生について、上記期間に申請できなかった場合は、1月中を最終の申請期間とする。

共通科目

全学部共通科目

共通 H26～30 ①

授 業 科 目	担 当 者	種別	単位	配当年次・セメスター								備 考		
				1年次		2年次		3年次		4年次				
				1	2	3	4	5	6	7	8			
建学の精神 必修	皇学入門《神道と日本文化》	神道学科教員 国文学科教員 遠藤(慶)・C.メイヨー 加藤(純)・橋本(雅)	講義	2	○									8クラス (神文史科現各1クラス・教3クラス)
	伊勢学(～H27) 伊勢志摩共生学(H28～)	オムニバス	講義	2		○								オンライン授業
総合基礎 必修	初年次ゼミ	指導教員	演習	2	○									単位認定のみ
	日本語表現	荆木・濱畑・平石 吉井・川合・前田(雅)	演習	2	○	○								30クラス (編入留学生クラス含む)
	古文 I		演習	1	○									不開講
	古文 II		演習	1		○								不開講
	漢文 I		演習	1	○									不開講
	漢文 II		演習	1		○								不開講
	情報処理 I (基礎)	張・桐村・石田 王・内藤	演習	1	○									13クラス
	情報処理 II (応用)	張・桐村・石田 王・内藤	演習	1		○								13クラス
	キャリア形成のための数学基礎 I	藤井(一)	演習	2	○									2クラス
	キャリア形成のための数学基礎 II	藤井(一)	演習	2		○								2クラス
統計学基礎	桐村・草川 筒井	演習	2	○	○									【a】秋学期 【b】春学期<統計検定対策>大原学園 【c】秋学期<データサイエンス入門>
伊勢志摩定住自立圏共生学 選 択	伊勢志摩定住自立圏共生学 I	池山	講義	2			○							伊勢志摩圏域の定住資源と将来像
	伊勢志摩定住自立圏共生学 II	池山	講義	2				○						伊勢志摩圏域の経済・産業と将来像
	伊勢志摩定住自立圏共生学 III	別府(三十三総研)	講義	2				○						1・2・3次産業基本論
	伊勢志摩定住自立圏共生学 IV	水谷(三十三総研)	講義	2				○						6次産業化実践論
	伊勢志摩共生学実習 A	池山	実習	1					○					
	伊勢志摩共生学実習 B	池山	実習	1						○				
	伊勢志摩共生学実習 C		実習	1					○	○				不開講
	伊勢志摩共生学実習 D		実習	1					○	○				不開講
人生と仕事 選 択	人生と仕事 I	オムニバス	講義	1		○								隔週
	人生と仕事 II	オムニバス	講義	2				○						愛知心理教育ラボ
	グローバル化と地域の経済社会	オムニバス	講義	2				○						三十三総研との産学協働講座
	社会人課題解決力養成演習	池山	演習	2					○					
	インターンシップ	堀内・新田(均)	演習	1				○	※					海外・国内でのインターンシップ等 ※単位認定申請については4セメにおいてても可
職業人実務基礎 選 択	ボランティア	中松	演習	1				○	※					
	ビジネス会計学(基礎編)	草川	講義	2		○								3セメへ変更
	ビジネス会計学(応用編) I	草川	講義	2			○	←○						4セメへ変更
	ビジネス会計学(応用編) II	草川	講義	2				○	←○					4セメへ変更
	ビジネス法学(基礎編)	高木	講義	2				○	→○					4セメへ変更
	ビジネス法学(応用編) I	高木	講義	2					○	→○				5セメへ変更
	ビジネス法学(応用編) II	高木	講義	2						○	→○			6セメへ変更
	ビジネス金融論・税務知識 I	加藤(耕)	講義	2		○								
ビジネス金融論・税務知識 II	加藤(耕)	講義	2			○								
外国語 選 択 必 修	英語基礎 I	小野	演習	1	○									教免・保育士必修 教免・保育士必修 不開講(状況においては開講) 不開講(状況においては開講) 単位認定のみ } 中高英免 単位認定のみ } 2単位必修 4単位以上
	英語基礎 II	小野	演習	1		○								
	英語コミュニケーション I	竹内	演習	1	○									
	英語コミュニケーション II	竹内	演習	1		○								
	英語総合 I		演習	1			○							
	英語総合 II		演習	1				○						
	英語資格対策 I	豊住	演習	1				○						
	英語資格対策 II	豊住	演習	1					○					
	英会話 I		演習	1					○					
	英会話 II		演習	1						○				
	ドイツ語初級 I		演習	1	○									
	ドイツ語初級 II		演習	1		○								
	ドイツ語中級 I		演習	1			○							
	ドイツ語中級 II		演習	1				○						

カリキュラム

(共通科目 H26～30)

○皇學館大学教育開発センター教育企画室規程

（趣 旨）

第1条 この規程は、皇學館大学教育開発センター規程第3条第2項の規定に基づき、皇學館大学教育企画室（以下「教育企画室」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

（目 的）

第2条 教育企画室は、皇學館大学（以下「本学」という。）が実施する教育活動を充実、発展させるため、全学の教育システムの企画・開発を行うことを目的とする。

（業 務）

第3条 教育企画室は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 本学の教育力を向上させるための教育システムの企画・開発
- (2) 全学部共通科目の企画・開発及びその運営
- (3) 分野・学部等横断カリキュラムの企画・開発
- (4) 副専攻の企画・開発
- (5) 学修成果の可視化の研究・開発
- (6) インスティテューショナル・リサーチ（以下「IR」という。）室との協働による教学IRに関する調査・分析
- (7) その他教育企画室の目的を達成するために必要な業務

（組 織）

第4条 教育企画室に、次の各号に掲げる教職員を置く。

- (1) 室長
- (2) 教育企画室担当教員
- (3) 教育開発センター事務職員
- (4) 企画部企画担当事務職員

（室 長）

第5条 室長は、教育開発センター長をもってこれに充てる。

（教育企画室会議）

第6条 教育企画室の業務の円滑な実施を図るとともに、教育企画室の運営に関する事項を審議するため教育企画室会議を置く。

2 教育企画室会議は、次の各号に掲げる委員で構成する。

- (1) 第4条に定める教職員
- (2) 企画部企画担当課長
- (3) 学生支援部教務担当事務職員
- (4) その他室長が必要と認めた者

（規程の改廃）

第7条 この規程の改廃は教育企画室会議の議を経て、教育開発センター会議において行う。

附 則

この規程は、令和2年10月1日から施行する。

○皇學館大学教育開発センター教育企画室規程

（趣 旨）

第1条 この規程は、皇學館大学教育開発センター規程第3条第2項の規定に基づき、皇學館大学教育企画室（以下「教育企画室」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

（目 的）

第2条 教育企画室は、皇學館大学（以下「本学」という。）が実施する教育活動を充実、発展させるため、全学の教育システムの企画・開発を行うことを目的とする。

（業 務）

第3条 教育企画室は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 本学の教育力を向上させるための教育システムの企画・開発
- (2) 全学部共通科目の企画・開発及びその運営
- (3) 分野・学部等横断カリキュラムの企画・開発
- (4) 副専攻の企画・開発
- (5) 学修成果の可視化の研究・開発
- (6) インスティテューショナル・リサーチ（以下「IR」という。）室との協働による教学IRに関する調査・分析
- (7) その他教育企画室の目的を達成するために必要な業務

（組 織）

第4条 教育企画室に、次の各号に掲げる教職員を置く。

- (1) 室長
- (2) 教育企画室担当教員
- (3) 教育開発センター事務職員
- (4) 企画部企画担当事務職員

（室 長）

第5条 室長は、教育開発センター長をもってこれに充てる。

（教育企画室会議）

第6条 教育企画室の業務の円滑な実施を図るとともに、教育企画室の運営に関する事項を審議するため教育企画室会議を置く。

2 教育企画室会議は、次の各号に掲げる委員で構成する。

- (1) 第4条に定める教職員
- (2) 企画部企画担当課長
- (3) 学生支援部教務担当事務職員
- (4) その他室長が必要と認めた者

（規程の改廃）

第7条 この規程の改廃は教育企画室会議の議を経て、教育開発センター会議において行う。

附 則

この規程は、令和2年10月1日から施行する。

皇學館大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム リテラシーレベル取組概要

〈概要〉

皇學館大学は政府の「AI戦略2019」に基づく数理・データサイエンス・AI教育プログラムを令和4年度より開始しました。全学部対象の教育プログラムです。令和4年度はリテラシーレベルとして下記1科目を開講しました。

〈対象科目〉

全学部共通科目 統計学基礎【データサイエンス入門】 2単位

〈対象学生〉

全学部の学生が受講可能です。

統計学基礎【データサイエンス入門】

- 【1】 オンデマンド：コンテンツ動画視聴、確認テスト受験、コメント提出
- 【2】 LMS：担当教員作成動画（学生からのコメント取りまとめ、質問への回答、補足説明）視聴、掲示板での質疑応答

皇學館大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム概要

〈令和5年度カリキュラム改定〉

1. リテラシーレベルを全学必修化
2. 応用基礎レベル開始 全学部共通科目 + 各学部専門科目で構成
3. 「データサイエンス副専攻」設置 応用基礎レベル + GPA要件

リテラシーレベル

全学部共通科目
データサイエンス入門

応用基礎レベル (文学部)

全学部共通科目
データサイエンス入門
数学基礎
プログラム・アルゴリズム基礎
DS・DE基礎
AI基礎

文学部専門科目
情報数学
アルゴリズムとデータ構造演習
データ加工
データ収集
データサイエンス演習

応用基礎レベル (教育学部)

全学部共通科目
データサイエンス入門
数学基礎
プログラム・アルゴリズム基礎
DS・DE基礎
AI基礎

教育学部専門科目
代数学基礎
代数学序論
確率・統計学Ⅰ
確率・統計学Ⅱ
コンピュータ概論
コンピュータ演習

応用基礎レベル (現代日本社会学部)

全学部共通科目
データサイエンス入門
数学基礎
プログラム・アルゴリズム基礎
DS・DE基礎
AI基礎

現代日本社会学部専門科目
社会情報学
社会調査法
社会情報分析
社会統計学Ⅰ (基礎統計)
社会統計学Ⅱ (多変量解析)
質的調査論

皇學館大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム 取組体制

本教育プログラムを管轄する教育開発センター（教育企画室）、授業運営を管轄する教務委員会、各学部専門科目を管轄する各学部学科が連携して、自己点検・評価をおこなってPDCAサイクルを回します。

